

シグマ研究委員会核データ専門部会 47年度第1回会合議事録

日時 昭和47年4月21日 13時～17時

場所 原研東海研A会議室

出席者 松延(住友), 千原(原研), 中原(原研), 中川(原研),
加藤(高エネルギー研), 角谷(CRC), 末広(東大), 飯
島(NAIG), 山越(船研), 八谷(三井造船), 村田(
NAIG), 山本(日立), 浅見(明)(原研), 川合(NAIG)
中嶋(法大), 西村(原研), 更田(原研), 五十嵐(原研),
(オブザーヴァー) 田中(原研), 菊池(原研), 中俣(日情サ
ービス), 宝珠山(MAPI), 稲垣(東電)

配布資料 1. 核データ専門部会47年度実行計画討論資料
2. 核データ検索システムW.G. 46年度第4回会合議事録

議事

1. 46年度一般経過報告(西村)
 - 桂木委員がBNLへ行き, 交流に関する話合をして来た。この結果としてENDF/B-IIの処理用コード群が入手出来。原研内のW.G.で整備作業を行った。
 - 核データセンター構想について, 例年以上に討論がくり返えされ, 予算要求も出された。しかし大蔵折衝の段階で駄目であった。
 - 日本独自の評価済みライブラリー(JENDL)を作ることになり, 原研内W.G.でその0次版を47年度中に作る。JENDLの改訂には大野氏が当ることになっている。
 - 昭和42～45年度までのシグマ研究専門委員会活動報告が日本原子力学会誌に載った。

2. 46年度経過報告

配布資料(1)に基づき五十嵐委員から報告があり、次いで各W. G. 責任者から補足説明があった。補足の主なものは以下の通り、

- 核データ評価W. G. (松延委員)

重い核のレビューW. G. で集めたデータは一担NESTORに入れて、NESTORのプロット用プログラムでプロットすることになった。

- 熱中性子散乱W. G. (中原委員)

データファイル作成についての問題点は模型の選択、減速材の選択、担当者選択等にある。

- 核データ検索システムW. G. (更田委員)

核データ検索システムの概念図が示され、説明があった。(配布資料(2)参照)

- FFPW. G. (飯島委員)

重要核種の選定はyield が1%以上のもの、 σ_c が大きいものを取っている。Yield $\times \sigma_c$ の大きいものが目安である。

Yield については瑞慶覧委員が計算を行っており、中間のまとめを出す。

1 keV 以上の σ_c は Benzi等のデータを大巾に利用する。計算は中村、末広委員が行っている。

1 keV 以下の σ_c は Resonance Parameter を使う。
thermal FFPW. G. でBNL-325 から取った共鳴パラメータのデータがカードになっている。

$\sigma_{tot}, \sigma_{el}, \sigma_{in}, S_0, S_1$ は11核種について系統性の検討を五十嵐、川合、村田委員が行っている。W = 14 MeV \rightarrow 7 MeV としてみた結果傾向が少し良くなった。

NESTOR (NEUDA DA) data のリストを検討中である。

3. 47年度実行計画,

46年度の継続作業が大部分である。

○ 核データ評価W. G.

重い核のレビュー作業を早く切り上げる予定、重要4核種(U-235, U-238, Pu-239, Pu-240)の評価作業について、共通の方針を打出し、出来るだけ共通の基盤に立ったものを出して行きたい。重要4核種の共鳴パラメータの評価を進める。スムーズパートの評価は今年度中に結論を出したい。中重核の評価を進める。

○ 核データ核索システムW. G.

47年度計画は配布資料(2)に述べている通りである。

○ FFPW. G.

計算活動はまだかなりあるが、今年度は収束の方向に進む予定である。

○ 熱中性子散乱W. G.

文献収集作業を継続する。

・ 各W. G.の参加人員とその担当作業を各W. G.から発表してもらった。

・ NESTORのあり方について議論があった。

4. 人事

○ 飯島氏が核データ評価W. G.をやめ、FFPに専念する。

○ 末広氏は核データ評価W. G.のO. Crの担当をおりる。

新加入,

菊池(康), 宝珠山, 稲垣の3氏の加入と, 田中氏の復帰を認め, 本委員会に計ることになった。

中挾氏はオブザーヴァーとしてW. G.に出席してもらおう。

5. アナウンス

本年秋に研究会がある。

高橋博氏が7月上旬休暇で帰国する。

以上